

本科 2 期 11 月度

解答

Z 会東大進学教室

一橋大世界史



21 章 戦間期ヨーロッパ I

添削課題

解答例

問1 ヴァイマル憲法は、主権在民、男女平等の普通選挙、労働者の団結権と団体交渉権の保障などを定めた、当時としては世界で最も民主的な憲法であり、現代福祉国家の原型を提示するものであったといえる。(93字)

問2 1918年11月からのドイツ革命において、各地で労働者や兵士によるレーテが結成され、ドイツ共産党などの左派が急進的改革を求めて武装蜂起を起こすなど、敗戦後のドイツは政治的に不安定な状況に置かれていた。共産党など左派の蜂起は、1919年前半には武力鎮圧され、社会民主党によるヴァイマル共和国が成立したが、ヴェルサイユ条約により課せられた莫大な賠償金を共和国政府の責任であるとして、保守派やナチスが政府批判を行うなど、政治的混乱は続いた。1923年には、賠償金支払いの遅延を理由にフランスとベルギーがルール占領を行った。ドイツはこれに対抗して消極的抵抗を行ったが、工業生産の停滞を招き、極度のインフレーションが生じた。(300字)

解説

《1919～23年までのドイツの状況》

問1 ヴァイマル（ワイマール）憲法についてはヒトラー内閣成立の背景となる大統領緊急令（第48条）のことがよく知られているが、それはここでは問われていない。「基本的特徴」という表現から、19世紀的な憲法との違いを書くべきことに気づいてほしい。

問2 「1919年から1923年まで」、さらに「ドイツの政治的・経済的状況について」、と書くべきことが指定されているので、史料を丹念に読む必要はあまりない。「この文章で触れられている点を中心に」とあるが、わずか4年間の出来事について300字も書かなければならないので、知っていることをすべて吐き出しても300字埋められるか微妙なところだろう。一橋大らしい細かな知識を必要とするものになっている。

政治はドイツ革命のことをどれくらい書けるかが勝負になる。経済はハイパーインフレーションのこと以外には書きようがないのだから当然である。政治的な状況ではナチスによるミュンヘン一揆などについても書きたいところであるが、やや細かい内容といえよう。

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--